

授業科目名	比較教育文化論
科目番号	CB25042
単位数	1.0 単位
標準履修年次	2・3 年次
時間割	夏季休業中 集中
担当教員	タスタンベコワ クアニシ
授業概要	この授業では、比較教育文化論実習の一環として行う外国への8日間の訪問実習に向けて、当該国の教育制度・政策の基礎を学習し、実習活動の準備をする。 2020年度はロシアのモスクワ市立教育大学での実習に向けてロシアの教育制度・政策の基礎を学習する。
備考	比較教育文化論実習に向けた事前学習 詳細後日周知 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス:4.広い視野と国際性 専門コンピテンス:2.教育学の基礎的体系的知識、3.教育学における総合的思考力
授業の到達目標(学修成果)	この授業は、秋学期に行うロシアのモスクワ市立教育大学での比較教育文化論実習に向けての準備学習である。授業ではロシア語の基本情報、学校教育制度構想、教育内容に関する基本的な理解を深める。
授業計画	この授業は1コマ10回分を集中講義の方法で三日間にわたって実施する。 第1回 オリエンテーション ロシアの基本情報、政治体制、社会・経済的状況 第2回 ロシア国民の民族・言語構成:歴史的背景と現状 第3回 ロシアの教育制度—ソ連時代の教育制度と継続面・断絶面 第4回 1990年代の教育政策 地方分権化、合理化、自由化 第5回 2000年代の教育政策 中央集権化、標準化 第6回 2010年代の教育政策—国際学力観の導入、英才教育の復活、愛国心教育の強化 第7回 多民族・多言語国家ロシア—少数・先住民族の母語教育保障 第8回 学校外教育—人格の完成、全面的発達と新自由主義的教育原理の衝突 第9回 高等教育改革の動向 アカデミック・モビリティ の重視 第10回 全体のまとめ、モスクワ実習の準備
履修条件	人間学群の学生に限る。
成績評価方法	事前課題40点(4件各10点)、期末レポート60点の100点満点で評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義70%、演習30% 授業中に事前課題と講義内容に関するペアワークを行う。 事前課題は指定資料の内容の要約と考察を書くことである。
教材・参考文献・配付資料等	関連文献リスト、事前課題の資料をオリエンテーションのとき配布する。 1. 岩崎正吾、関啓子、『変わるロシアの教育』ユーラシア・ブックレットNo162、2011年 2. 澤野由紀子、「Chapter 6 大国ロシアを支える学校」、二宮昭編『新版 世界の学校教育制度から日常の学校風景まで』学事出版、2016年、66~76頁 3. 『ロシア及びCIS諸国における教育改革と教師教育の現代化に関する総合的調査研究』平成27年~28年の中間報告書 <a href="http://hdl.handle.net/2241/00151540">http://hdl.handle.net/2241/00151540</a> 4. 嶺井明子、岩崎正吾、澤野由紀子、タスタンベコワ・クアニシ、『現代ロシアの教育改革—伝統と革新の<光>を求めて』東信堂、2021年
オフィスアワー等(連)	人間系A516 内線4596

絡先含む)	e-mail: kuanysh26@human.tsukuba.ac.jp 月曜日 昼休み
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	受講生にロシアに関心を持つこと、第2回外国語としてロシア語学習の経験をもつこと、または履修時点で本学の「ロシア語基礎」、「応用ロシア語会話」を履修することのいずれかが望ましい。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	ロシア, 旧ソ連, 旧社会主義, 多民族・多言語国家, 新自由主義